

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

生徒が一番多くの時間を過ごす集団である学級が安全・安心と感じられる場所となるように、今年度は学級経営方針の下、いじめのない学級づくりのためのスローガンを各クラスで作成した。

#### 【取組2】(A中学校)

図書室において、昼休みを利用し、ALTとPTAによる読み聞かせのイベントを実施した。にぎやかな集団の中で過ごすことの多い学校生活の中で、絵本を集中して読む時間は、生徒にとって心が安らぐひと時となった。

#### 【取組3】(A中学校)

生徒会が発案し、全校生徒で千羽鶴を折り、被爆地である広島市に1000羽の折り鶴を献納した。全校生徒が「平和への貢献ができた」という実感や「同じ願いをもつ仲間がいる」と実感できる機会となった。

#### 【取組4】(A中学校)

運動会の様々なシーンを振り返り、本番の競技のみならず、練習や協力し合う場面で活躍していた生徒にメッセージを贈り合った。仲間からの感謝の言葉が贈られることで、「役に立てた」と全員が実感する機会となった。

#### 【取組5】(B中学校)

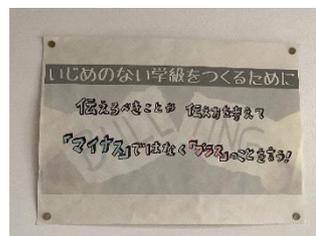
数学の方程式の単元において、複数の解法がある問題に取り組み、どんな解法ができるかを考えた上で、他者にどのように伝えるか選択し、互いに考えを共有し合った。

自己決定の場の提供や心理的安全性の高い授業の雰囲気により、自己の意見が受け入れられていると感じられる機会となった。

#### 【取組6】(C中学校)

「教育機会確保法」、「COCOLOプラン」、「学びの多様化学校」、「不登校生徒の成績評価」というテーマについて、知識構成型ジグソー法を用いて研修し、理解を深めた。

また、学級や授業で活用できる構成的グループエンカウンターを体験し、どのような場面で活用できそうかを考え、学年集団ごとに共有した。



## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（D中学校）

今年度からSSWが支援会議に加わり、学校からコンタクトをとることが困難な生徒や家庭について、SSWを介した連絡や安否確認もできるようになった。また、毎週の支援会議の議事録について校務支援ツールを活用して全教職員に迅速に共有することで、生徒理解や教職員間の連携に役立てることができた。

#### アウトリーチによる支援（A中学校）

担任が他の校務に当たっている時に、代わりに不登校対応巡回教員が不登校生徒に電話連絡や家庭訪問、ポスティングをすることで、不登校生徒への支援を切れ間なく行うことができた。また、担任が不登校対応巡回教員に委ねる際には伝言や手紙を添えることで、担任とのつながりを維持できるように工夫した。

#### 校内別室における支援（A中学校）

学習機能と居場所機能の双方を備えた環境を整え、生徒の「やってみたい」という意思を尊重しながら運営している。また、教職員との関わりや校内別室の利用生徒同士の関わりを大切に、教科担当者から生徒への積極的な声掛けや校内別室の利用生徒が主催するイベントも行っている。

学校への帰属意識を育むために、特別活動において、校内別室の参加方法を工夫し、実施している。生徒会選挙の際には、期日前投票を行い、学校づくりの当事者意識をもたせることができた。



#### デジタル機器を活用した支援（B中学校）

校内別室を利用している生徒に向けて、リモート配信による授業を行った。教室の後方に配信用の端末を設置することで、学級の雰囲気伝えることができた。また、誰がリモート配信を利用しているのか、画面からは分からないように配慮した。



#### 関係機関との連携（C中学校）

保護者への連絡が難しい生徒について、通院する病院と連携し、生徒の健康状態を共有し、医師による見立てや助言をもらった。

また、教育支援センターを利用する生徒について、SSWが支援会議に参加し、情報交換と手だての検討を行った。

## 成果

各担当校の好事例を集めて支援会議で周知することで、不登校対応の選択肢を広げることができた。また、全校において不登校生徒の割合の低下が見られた。

## 課題

不登校対応の必要性や機運が高まってきた中で、不登校対応の担任負担を分散し、組織的に行うことが今後の課題である。